



お茶の水聖書学院
NEWS



〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台 2-1
OCCビル2F
TEL 03-3296-1005
FAX 03-3296-4641
e-mail office@obi-net.com
Web http://www.obi-net.com
お茶の水聖書学院
お茶の水聖書学院後援会

「メモメント・ドミニ」

理事 堀 肇



この度の震災で多くの人が犠牲となられたこともあって、「生と死」について、ふだんよりも意識的に考えるようになられた方も多いと思います。加えて福島第一原発事故によ

る放射能問題は生命を脅かす事態となり、この問題を私たちの心の深くに内在化させることになりました。

さて、こうした折、私は過日、聖学院大学の総合研究所主催の講演会でキリスト教死生観についてお話をすることに、その準備のため聖書と教会史（特にマルチン・ルターの死生観）に見られる死生観を学び直す中で、あることに改めて気づかされたのです。それは聖書とプロテ

スタントの死生観は罪の結果である「死」を厳粛に受け止めつつも、強力に「生」の方に焦点を当てているということですが。あの有名な「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです」（ヨハネ 11・25）という言葉はその代表的なもの。これは死後の復活の約束ですが、「死んでも生きる」とあるように「生・いのち」が重要なメッセージとなっています。実はここに聖書とキリスト教の死生観の土台があるのです。

は、生に緊張感を与えるという点では素晴らしい人生態度ですが、それだけではキリスト教死生観の全体は伝わってこないのです。それに加えてメモメント・ドミニ（「主を覚えよ」）がもつと語られなくてはならないのです。つまり死を覚えるだけでなく主を覚え、その主が与えて下さった「生」を生けることが私たちの生き方ではないでしょうか。

ルターの死生観は『死の準備についての説教』や『詩篇九〇篇の講解』などに述べられています。彼の主張は「死の真直中で生命にありて生く」というものでした。これは「生の真直中で死にありて生く」という中世カトリック教会の死生観を超えようとするものです。つまり死をそれ自体で考えるのではなく、生において考えるということです。

これはキリスト者の日常生活を動かすものです。行き詰まり、最悪の事態、それこそ「死」を象徴するような限界状況にあっても「生」に目を向ける信仰に生きていきたいと思ふのです。OBIの将来も財政、人材など、取り組まなくてはならない様々な課題があります。これは教会や個人においても同じです。問題を認識しつつも主に目を向け、そのみを期待しながら、どこでも「メモメント・ドミニ」と挨拶を交わしたいものです。

その意味で修道士が挨拶として交わしたと言われるメモメント・モリ（ラテン語で「死を覚えよ」）など

サマースクーリング報告

卒業生 中島 總一郎

今年も夏期スクーリングが7月4日(月)～6日(水)、恵みシャレー軽井沢で開催された。主講師に村瀬俊夫蓮沼教会前牧師を迎え、「霊性の深まりを求めて」が主題であった。

第一日目の開会礼拝は世良田学院院长が箴言1・7等から勧められ、今回の講師は増田前学院院长、山口



昇師と共に新聖書注解の編者であり、期待するよう紹介された。第一回目の講義は「日々の霊性」で、霊性とは三位一体の神との深い交わりの中でキリストの恵みと愛の豊かさを味わうことで、聖書を知識として読むのではなく心で聞くように読むことが大切であった。

第二日目は戸川偕生師による「朝の光」で始まり、マタイ25・1～13からおろかな五人の乙女にならないよう再臨の備えを怠るな、それには日々聖霊に満たされる必要があるとあった。第二回目の講義は「愛の深呼吸としての祈り」で、祈りの口祷も重要だが念祷すなわち黙想と観想がより重要で、五感を挙げた全身全霊で感じ取っていくことが大切とあった。第三回目講義では「キリストの歩みに倣う」で、キリストの似姿に近づくには霊的修練が必要で、自分もキリストと共に十字架につけられるならば新しい人を着ることができるとあった。午後は、夕食

まで自由時間で、同窓会も開かれた。第四回講義は「復活のキリストと共に」で、十字架のキリストではなく復活のキリスト体験で生きるべきことが強調された。

第三日目の「朝の光」は福井誠師が使徒三章から勧奨された。第五回目講義は「地球の霊性」で、神は全被造物に内在しておられるのであるから「治めよ」と命じられた人間は、貪るのではなく自制しつつ神の秩序を保つべしとあった。開会礼拝は藤原副学院院长がマルタとマリヤの霊性をヨハネ11章から語られ、個性に優劣はつけられないが、キリストとの関係でその態度に霊性の違いを認めざるを得ないとあった。



スクーリングに参加して

卒業生 阿部 幸平

「日本のキリスト者と教会の弱さは、復活信仰が希薄なこと。十字架につけられたままの復活のイエス様と出会わされる体験が欠如。観念的な十字架信仰はもろい。復活の光に照らされた十字架「の贖い」信仰を体得するなら、信仰がゆらぐことは無い。」村瀬先生の講義を通して体験的信仰の重要性を教えられました。また人間の原罪については、「主イエス・キリストを着なさい。」(ローマ13・14)この御言葉から「新しい人イエス・キリストを着る時、古い人は死んでいる。自分自身を捨てること、自分では古い人を脱ぎ棄てられない。主イエス・キリストを我が身に着る時、古い人はおのずから死んでゆく。朝ごとにキリストを着ることです。朝ごとに恵みを受けることです。私は朝替えをする時そう思いながらする。靴

を履くとき平和の福音を履くと思
う。」

この説明はたいへん解りやすく、
自分の内面にある古き人との戦い
において勝利する秘訣であると思
わされました。そして、黙想・観
想の祈りによって、キリストとの
交わりを密接なものとする生活習
慣を実践する者になりたいと思
いました。

本科三年 町田 恵子

7月4～6日軽井沢の恵みシヤ
レーで開かれたOBIのサマース
クーリングに参加させていただき
ました。「霊性の深まりを求めて」
というテーマのもとに、蓮沼キ
リスト教会の村瀬俊夫先生が熱く
語ってください(感謝)(感激)(感
動)というOBIの3Kの恵みを
頂いて戻りました。

幅広い識見と長年の経験に基づ
いた村瀬先生の1回90分、5回に
わたるご講義の内容は私には難し
く、とても消化しきれないので

が、懇切丁寧なレジュメをいただ
いておりますので、これからじつ
りと学ばせて頂きたいと思ってお
ります。

初日に「クリスチャンの霊性と
はイエス・キリストの恵みと愛の
豊かさを喜び生活しているかどう
か」ということであるとお語りく
だされた中で、「わたしに、活け
るイエス様から御父の愛を福音し
ていただく」とおっしゃったの
ですが、「福音していただく」と
いうことが私には耳新しく、どう
いうことだろうとずっと考え続け
ておりましたが、(1) あなたの
罪は赦されている。(2) あなた
はわたしの愛する子、わたしはあ
なたを喜んでいる。(3) 今日も
わたしはあなたとともにいる。と
語ってくださいる聖霊のみ声を日々
聞きつつ、歩ませていただくこと
だと納得し、この福音をしっか
りと握りしめて帰ってまいりまし
た。

声楽・オルガン研修会報告

音楽科講師 植木 朋子

東日本大震災と巨大津波、原発
事故の苦しみの中に在る日本です。
学院長と藤原先生の導きにて暗闇
の支配に屈することなく学院生、
聴講生、OGオルガニスト、講師
の合計10名参加の研修会でした。

ラッキーセブン!、7年目にし
て浅間山その雄姿がみごとに!ほ
ほに当たる。"そよ"との風にこ
とぼが見つからず、傘いらずの日
程でした。問題は一つのオルガン
を10名が使う為、十分な練習が不
可能です。今回は事前に経堂めぐ
み教会(前学院長故増田先生奉職)
をお借りしてレッスンを行いまし
た。参加者は一泊とは思えない位
の充実した有益な学び、公開レッ
スン、お交わりで一週間の日々を
得たとの感想が多くありました。
宿泊は追分教会より七分のペン
ション。ごちそうせめです。オー
ナー手作りのジャムは抜群です。

白樺の木の巣箱の野鳥も今年は歓
迎の姿を現しました。

会場である追分教会の素晴らし
い響き、麗しいオルガンの音色、
手入れの行き届いた広い芝生、草
花の優しさ。ティーカップでいた
だいた紅茶。窓からのみごとな山
ぼうしの白い花。稲垣先生ご夫妻
に感謝です。最後の発表コンサート
は30名の参加でした。始めに今
回ミーティングごとに心を合わせ
て、被災された人への祈り"を
致しました。声楽コースのお二人
は福島、宮城にてご親族が被災さ
れ、何度も現地に応援に通われま
した。このような大変な中、熱心
に学ばれ、卒業して会をリードし
てくださったその賛美には心打つ
ものがありました。"尊き主よ。
我らをお守りください!"



学窓トピック

聖書科・音楽科

●2011年度、後期生を募集中です。後期は、神学思想の歴史(伊藤淑美師)、創世記解説(稲垣緋紗子師)が新に開講されます。申込は、お早めにお願います。

●故増田誉雄先生召天一周年追悼記念会が9月9日(金)17時~20時、ホテルガーデンパレスにて開かれました。100名以上の方が参列し、増田誉雄先生のお働きを主に感謝する時となりました。

●9月26日(月)~10月5日(水)の予定で「宗教改革の足跡とバツハをたどる10日間~ルターの迫力とカルヴァンの情熱を目で観て感じる体験的教会史学習~」の研修ツアーが実施されます。団長は横山武講師(教会史)、チャプレンは藤原導夫副学院長(説教学)です。旅の安全と祝福のために覚えてお祈りください。

●2011年のクリスマスは、12

月8日(木)午後0時~3時を予定しております。ぜひ参加してください。

●今年の教会音楽デーは、中山信児先生(J.E.C.A. 菅生キリスト教会牧師、福音賛美歌協会理事・賛美歌委員)をお迎えして「福音派の讃美歌についての歴史的展望と現在、今なぜ、新しい賛美歌集なのか」というテーマで、お話をさせていただきます。先生は今年の12月に発行が予定されている、賛美歌集の編集の働きに牧師という立場で携わっていらっしゃる予定です。今、新しい賛美歌集を出す意義、また、新しい賛美歌集の特徴等お話しいただく予定です。賛美歌集に掲載されている歌を、みんなで賛美しながら、今までの讃美歌との違いも考察していきたいと願っています。10月18日(火)に開催予定です。ぜひ、ご参加ください。詳しくは、同封されていますチラシをご覧ください。

2011年度 後期 開講科目

	月	火	水	木	金	土
I	11:00 ~ 12:30	信仰生活のための 聖書教理入門(*) 福井 誠		旧約聖書の思想と概説1 (*) 西 満	神学思想の歴史(上) 伊藤淑美	
II	13:30 ~ 15:00	マタイの福音書解説(*) 世良田湧侍		使徒の働き(原始教会の歴史がわかる) (*) 藤原導夫	神学思想の歴史(下) 伊藤淑美	
III	15:30 ~ 17:00	聖書原典購読 野口 誠		聖書の知恵に聴く (新約メッセージの探求) 中島總一郎	創世記解説 稲垣緋紗子	
		説教ゼミ 藤原導夫				
IV	18:30 ~ 20:00	「魂への配慮」を学ぶ 堀 肇		*	人物に学ぶ(モーセの生涯を中心に) 河村従彦	

(*)の科目は必修科目になります。

・神学思想の歴史(上・下)、創世記解説は、後期新規開設科目になります。

クラス報告

『信仰生活のための聖書教理入門』 担当 福井 誠

このクラスは、一般信徒が聖書教理の基本を学ぶためのものです。テキストは、ハロルド・リンゼル著『聖書教理ハンドブック』を使っています。著作年代は、古いものですが、内容は不思議にも現代にも通じるもので、コンパクトに、信仰的な要点がよくまとめられている本です。

このテキストを中心に、最近の研究も交えながら、聖書、神、人間、キリスト、救い、信仰生活、教会、証しの生活、終末など、解説していきますが、私はまずこのテキストに書かれている内容をよく理解して、しっかり自分の信仰の基本として身につけていくことが大切であろうかと思えます。そうすれば、個人としても安定した信仰の歩みを進めることができ、さらに教会においても、よき奉仕者として整えられていくことでしょう。

やはり牧師として、信徒一人一

人と向かい合っていく時に、思わ

されることは、信仰理解が不十分なために、なかなか信仰的な歩みがしつかりしていかない、また「年数からすれば教師になっていないければならないにもかかわらず」（ヘブル5・12）ということがあるように思われるところがあります。

信仰というのは、知識教育ではなく、価値教育に類するものですから、ただ頭で理解するという学び方ではなく、自分の物の見方、考え方が変えられるまでに、体験的に学んでいくことも大切でしょう。学んだことをよくよく反芻し、あの経験この経験に結びつけて、



深めていく、ということですね。ぜひ、ご一緒に主のよき働き人として整えさせていただく時を持つこととしましょう。

「信仰生活のための聖書教理入門」を受講して——ロートル奮闘記——

専修科 川端安弘

今年の4月より始まった福井

誠先生の「信仰生活のための聖書教理入門」の講座に加えていただいています。クラスには常時一二、三名の受講生が熱心に参加されておられ、質問、意見も活発になされ、実に良き雰囲気です。

福井先生の授業はご自分の牧会体験を和気あいあいと話され、リラックスした雰囲気が始まりますが、本論に入ると「受講者たる者ここは学べし」との愛情と厳しさが先生を突き動かし、機関銃のように早口で語られ、実に緊張感のある授業なのです。

福井先生は各テーマを骨太に、かつ柔軟にとらえ、広く自由神学

などの意見も紹介しながら、福音的にまとめられる。そこからは先生ご自身が牧会の中で、信者、未信者の視線に合わせ、その疑問にどう霊的・聖書的の回答を与えられるかを真摯に取り組んでおられることがよく伝わってきます。私たち生徒に良きチャレンジを与えてくださっています。

ただし、ロートルな私としては聞き取れない、メモが取れない、大苦戦。この声が大きくなり、先生へ訴えることにもなったのです。先生には失礼しましたが、このことを通じて、受講生の皆さん、特に女性の方々が熱心にノートをつけておられ、少しでも聞き漏らすまいとされていることを知り、関心もし、自身の緊張感へ繋がりました。このように苦戦をしていますが、エチオピア女王カンダケの高官へ伝道したピリポに習うべく、精進したいと思えます。後半の授業に向けて耳の穴をカッポジって供えます。

OBI 献金・後援会献金報告

(2011年4月21日～7月31日)

2011年度もご協力いただきありがとうございます。『夏期献金』へのご協力も心から感謝申し上げます。

阿部 幸平	有田 貞一
有田美榮子	安藤 谷子
飯島多稼夫	猪狩 友行
生田今日子	石井 由紀
伊地智恵子	伊藤 洋子
植木 朋子	梅沢 近子
小澤ナオミ	鬼京由紀子
尾上 淑子	小野沢恵子
尾原 光彦	金本 悟
加茂 康一	加茂 早苗
川端 安弘	北原 重信
木下 順子	国東 恵子
窪井 節子	黒沢すぎの
小林喜久男	齊藤とし子
佐藤 敬	佐野 盾一
島田 裕子	庄司満喜子
小宮 明子	須子 都
鈴木 芳宣	世良田湧侍

高沢 茂雄	田中 恵子
田端 勝敏	中島總一郎
中島 和子	浪井 弘子
西 満	芳賀 功
東 利雄	日名 富子
平松 庸一	福井 誠
藤原 導夫	増尾 義文
増尾 邦子	町田 恵子
松本 逸子	三浦喜代子
三友 庸子	宮本三枝子
目崎由紀子	森 登
森井あずさ	森本 馥
山口 松子	山本しづか
山本 潤	依田 和子
脇坂 勇	山田由美子
小平聖書キリスト教会	
鶴瀬恵みキリスト教会	
中山キリスト教会	
櫻越独立教会	



後援会からのお願い

『OBIを祈り支える後援会』は今日まで皆様方の熱いお祈りと献金によってOBIを支えてまいりました。深く感謝申し上げます。今後ともいっそうのご協力をお願い申し上げます。

新しい維持献金者を求めています。郵便預金から自動振替の手続きをしていただけましたら幸いです。金額は一口千円からです。ご賛同、ご協力いただける方には、所定の「自動払い込み利用申込書」をお送り致しますので、OBI事務局までご一報いただければ感謝です。

< 自動払い込み申込の流れ >

- 1) 申込者から OBI 事務局へ申込の連絡
(OBI 事務局 03-3296-1005)
 - ↓
 - 2) 事務局から申込者へ「自動払い込み利用申込書」送付
 - ↓
 - 3) 「自動払い込み利用申込書」記入 (申込者)
 - ↓
 - 4) 記入した「自動払い込み利用申込書」をもってお近くの郵便局に提出 (申込者)
※必ず自動払い込みに指定した通帳をお持ちください
 - ↓
 - 5) 郵便局から OBI 事務局へ受付通知
 - ↓
 - 6) OBI 事務局から申込者へ受付完了通知
- 以上のお手続きで、毎月のお振り込みの手間が省けます。ご協力よろしく願いいたします。